

第2章 オープンハウス型意見交換会の開催報告（開催順）

1. 実施概要

■意見収集の方法

計画策定趣旨、都市機能誘導・居住誘導の考え方、各拠点のごとの方針、日常生活拠点の方針、市全域での拠点の位置図についてのパネルを展示し、アンケート調査形式（下の調査票参照）で以下の点について来訪者に意見を伺った。

- 1) 来訪者の属性
- 2) よく利用する拠点
- 3) 開催場所の拠点における重要な施策
- 4) 強化すべき施設・機能
- 5) 日頃利用する地域や居住地域で、災害に対する取り組み上重要な項目
- 6) 日頃利用する地域や居住地域で、感じている課題

■開催パネル

趣旨説明パネル

平塚市の便利で快適な都市づくりに向けて

現在平塚市では、今後進展する人口減少・少子高齢化や、頻発・激甚化する自然災害に対応できるよう、住宅や公共施設、医療施設、商業施設など日常生活に必要な施設を適切な場所に配置し、それぞれを公共交通で結ぶことにより、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の便利で快適なまちづくりを進めるため、立地適正化計画の策定を進めております。

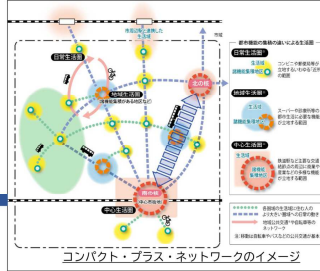
昨年度の意見交換会の結果を受けて作成した、目指す都市の骨格や拠点まちづくりの案について、ご意見を聞かせください。

市の計画では、右図のように平塚駅周辺の中心市街地「南の核」や現在整備が進んでいる大神地区の「北の核」を位置付け、多様な施設の立地を図っています。

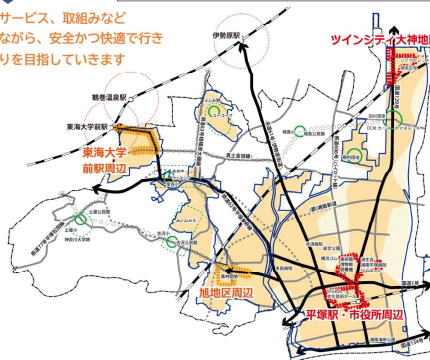
今後は、バスなど公共交通でアクセスできる場所に、既存の各種施設の立地を活かした「地域の拠点」を育みながら、誰もが便利で暮らしやすいまちづくりを目指します。

地域の特性・生活圏に応じた
拠点を設定

拠点に必要な施設やサービス、取組みなど
皆さまの意見も聞きながら、安全かつ快適で行き来しやすい拠点づくりを目指していきます



コンパクト・プラス・ネットワークのイメージ



● 中心生活拠点
● 地域生活拠点
● 日常生活拠点
● 駅周辺ゾーン
● 都市活動維持ゾーン
○ 緑地共存ゾーン
→ 次機能
⇄ フィーダー交通
— 主要な道路

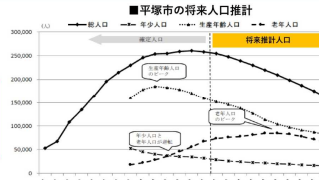
都市の現状とこれからのまちづくり

地域コミュニティ・地域社会の活力低下等への対応

市の人口は2010年をピークに減少しており、今後の人口減少、高齢化が進むことが見込まれています。

2020年	2050年
人口 : 258,422人	⇒約20万人
高齢化率 : 28.1%	⇒40%超

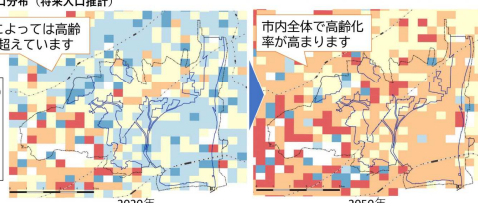
国立社会保障・人口問題研究所の将来推計より推計



■65歳以上人口分布（将来人口推計）

現在、地域によっては高齢化率が40%を超えています

市内全体で高齢化率が高まります




人口減少や高齢化の進行により、商業施設、医療施設や、バスの利用者などが減り、日常生活を支えるうえで必要な施設の維持が困難になるおそれがあります。

また、外出機会の減少に伴い孤立する高齢者が増加するなど、地域のコミュニティの衰退などが心配されます。

課題解決に向けて

子どもから高齢者まで、誰もが豊かに暮らし続けられるまちづくりを進めていきます。

- そのため、誰もが行き来しやすく、安全・安心に過ごせる場所を、地域の拠点として育むことが大切と考えます。
- また、地域の拠点に人々が集まり、様々な活動・交流が生まれ、賑わいがある元気なまちにすることが大切と考えます。



誘導区域の基本的な考え方と各拠点のまちづくりの方針

住まいの誘導と拠点まちづくりの考え方

「立地適正化計画」制度について

立地適正化計画では、都市機能（行政・商業・医療福祉・子育て・教育文化・金融など）の集積や公共交通のネットワークの状況、災害リスクを考慮して、「今後、積極的に住まいを誘導する区域」と「生活を支える都市機能を誘導する区域（拠点）」を定めます。拠点には「居住者の利便性・快適性を向上させる施設（誘導施設）」を誘導します。国の支援制度も活用して、官民の連携により、コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを進めます。



住まいを誘導する区域と拠点の考え方

居住のゾーン

- 居住定住ゾーン（居住誘導区域）**：多くの市民が住んでおり、生活サービス機能がある便利な地域
- 都市活動維持ゾーン**：災害リスクの高い場所や工場等が集まる場所で、積極的に住まいを誘導しない地域
- 緑住共存ゾーン（市街化調整区域）**：農地・山林が広がり、集落地が点在する地域

拠点

- 中心生活拠点**：鉄道駅と主要な南北軸に接し、全ての市民が利用できる生活サービス機能がある拠点
- 地域生活拠点**：鉄道駅や幹線バス路線のバス停があり、平塚駅まで行かなくても利用できる生活サービス機能がある拠点
- 日常生活拠点**：郊外部の住宅地のバス停や公民館周辺など身近なコミュニティの拠点

都市機能を誘導する区域（拠点）

都市機能誘導区域の考え方

区域は、居住、都市機能が分布する範囲・施設集積が想定される範囲を考慮して設定します。

誘導施設

施設種別	行政機能	公共施設	子育て機能	医療・文化機能	商業機能	金融機能	
今ある都市機能の例	市役所本庁舎	済生会湘南平塚病院	平塚市福祉会館	こども発達支援室	中央図書館	ららぽーと湘南平塚	平塚郵便局
誘導方針	中核的な行政機能の維持	総合的な医療サービスの維持	介護福祉や子育て支援、文化等の基幹的施設の維持	広域的に利用される商業機能の維持	広域的に利用される商業機能の維持	決済や購買対応機能の維持	

拠点まちづくり（平塚駅・市役所周辺）

地区の現状・拠点の範囲（都市機能誘導区域）

地区の現状

- 拠点機能**
 - 全市民を対象とした病院や公共施設が平塚駅北側の約1km圏に多い
 - 交通軸**
 - JR平塚駅～小田急線駅方面等の放射状のバス路線の結節点
 - まちづくりの動向
 - 平塚駅周辺地区活性化事業が進行中
 - 市民ニーズ
 - 商業・医療・福祉機能の強化、拠点内の移動支援



拠点の方針

「居心地が良く魅力の高い玄関口、全市民が利用する都市機能が集積する拠点」

施設利用や滞在・交流

- 買物や通院、行政手続き等とあわせて、イベントを楽しんだり、ゆっくりと時間が過ぎる場、誰もが気軽に集まり賑わう場がある

移動・回遊

- バス、自転車、自動車などでアクセスしやすい拠点
- 歩きやすい歩行環境、通り毎に特色のある商店街、休憩や交流できる公園・広場などウォカブルなネットワーク
- 拠点内のスローモビリティや移動支援サービスがあり、医療、文化施設、商店街などを快適に移動できる

住まい

- 郊外からの高齢住居者や市内外からの多世代の転入を受け止める多様な住まいがある



拠点内に誘導する施設（誘導施設）

公共施設集積維持区域

市内全域から利用される主要な行政・文化・医療・福祉・商業機能を維持する

都市機能	行政機能	公共施設	子育て機能	医療機能	教育・文化機能	商業機能	金融機能
今ある都市機能の例	市役所本庁舎	済生会湘南平塚病院	平塚市福祉会館	こども発達支援室	中央図書館	ららぽーと湘南平塚	平塚郵便局
誘導方針	中核的な行政機能の維持	総合的な医療サービスの維持	介護福祉や子育て支援、文化等の基幹的施設の維持	広域的に利用される商業機能の維持	広域的に利用される商業機能の維持	決済や購買対応機能の維持	

「賑わい・交流創出区域」

南の核、広域の玄関口として、生活利便性と賑わい創出の複合的な機能を強化、誘導する

都市機能	行政機能	公共施設	子育て機能	医療機能	教育・文化機能	商業機能	金融機能	
今ある都市機能の例						平塚文化芸術ホール	ららぽーと	平塚駅前金庫
誘導方針						健康的な文化施設の維持・強化	広域的に利用される商業機能の維持	決済や購買対応機能の維持

拠点まちづくり（ツインシティ大神地区）

地区の現状・拠点の範囲（都市機能誘導区域）

地区の現状

- 拠点機能**
 - 大規模商業施設であるシアワレット湘南平塚が立地
 - 交通軸**
 - 平塚駅・厚木方面のバス路線の交通軸
 - 交通広場（トランジットセンター）
 - まちづくりの動向
 - 土地区画整理事業により整備中
 - 新幹線駅と連絡する（仮称）ツインシティ橋が整備予定
 - 市民ニーズ
 - 医療・福祉機能の誘導・強化



拠点の方針

市民や市外からの来訪者が行き交い、広域的な交流と連携のゲートとなる拠点

施設利用や滞在・交流

- 市外からの来訪者も行き交うトランジットセンター、商業施設の周辺に、健康づくりや福祉サポートを受けられるなどの賑わいがある

移動・回遊

- 南北の強化された路線バス（幹線）により、平塚駅方面や厚木駅方面から快適にアクセスできる
- 交通広場から徒歩やグリーンズローモビリティで地区内の利便施設に快適に移動できる
- 新幹線駅開業後は、トランジットセンターから新幹線駅まで便利に乗り換えできる

住まい

- 計画的開発住宅地の良好な住環境、ゆとりある住まいがある



拠点内に誘導する施設（誘導施設）

都市機能	行政機能	公共施設	子育て機能	医療機能	教育・文化機能	商業機能	金融機能
今ある都市機能の例	大平市民センター	クリニックミール（シアワレット湘南平塚店）	大平児童遊園地	大平公民館	シアワレット湘南平塚	イオン銀行（シアワレット湘南平塚店）	
誘導方針	行政窓口機能の維持	健康増進、福祉サービス、子育て支援文化・交流等の機能の維持・強化	広域的に利用される商業機能の強化	決済や購買対応機能の維持			

拠点まちづくり（旭地区周辺）

地区の現状・拠点の範囲（都市機能誘導区域）

地区の現状

- 拠点機能**
 - 旧旭村役場があった郵便局周辺から高村団地の一体と、平塚駅～高村団地の交通軸の沿道に生活サービス施設が多き立地
 - 2公民館と山下団地周辺は金目川の湛水想定あり
 - 交通軸**
 - 高村団地を結ぶとするバス路線の交通軸
 - まちづくりの動向
 - 高村団地の再生による医療福祉拠点化が進行中
 - 市民ニーズ
 - 西部地域から利用あり、南北の移動サービスのニーズがある



拠点の方針

周辺・郊外地域の暮らしを支える医療・福祉と多世代交流の拠点

施設利用や滞在・交流

- 買物や通院と合わせて、多世代が集まる店舗や交流の場がある
- 働き、交流できるテレワーク拠点、子育て支援など、若年世代、子育て世代がうれしい施設やサービスがある

移動・回遊

- 平塚駅・東海大学前駅にアクセスできる幹線バス路線と便利な交通結節点がある
- 外出を促す/フリーアワーで快適な歩行者環境や地域内移動サービス
- イベントでにぎわう公園・広場がある

住まい

- 計画的開発住宅地の良好な住環境、ゆとりある住まいがある



拠点内に誘導する施設（誘導施設）

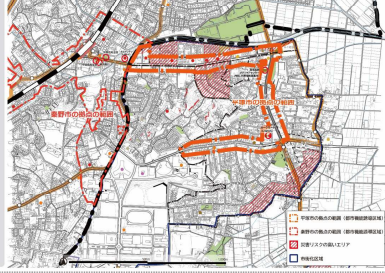
都市機能	行政機能	公共施設	子育て機能	医療機能	教育・文化機能	商業機能	金融機能
今ある都市機能の例				病院（新設予定）	地域交流・文化施設（新設予定）	FUJ	平塚駅前郵便局
誘導方針	行政、教育、文化、福祉機能等の基幹的機能の強化	総合的な医療サービスの維持	広域的に利用される商業機能の強化	広域的に利用される商業機能の強化	広域的に利用される商業機能の強化	決済や購買対応機能の維持	

拠点まちづくり（東海大学前駅周辺）

地区の現況・拠点の範囲（都市機能誘導区域）

地区の現況

- <拠点機能>
 - ・東海大学前駅にアクセスする道路沿いに商業・医療機能が立地
- <交通軸>
 - ・小田急線東海大学前駅から徒歩圏
- <まちづくりの動向>
 - ・土地区画整理事業が2015年に完了
 - ・秦野市立地適正化計画の都市機能誘導区域に隣接
- <市民ニーズ>
 - ・西部地域住民の買物や通学、通学のためのバス利用ニーズ



拠点の方針

秦野市の拠点と連携した、郊外地域の生活を支える拠点

<施設利用や滞在・交流>

- ・買物や通院、生涯学習、大学と住民の交流など、多様な活動をまじめる場がある

<移動・回遊>

- ・西部地域や平塚駅方面から東海大学前駅にバスでアクセスしやすい
- ・安全な歩行者環境や公園・広場があり、快適に通勤・通学・通院・買い物ができる

<住まい>

- ・計画的開発住宅地の良好な住環境、ゆとりある住まいがある

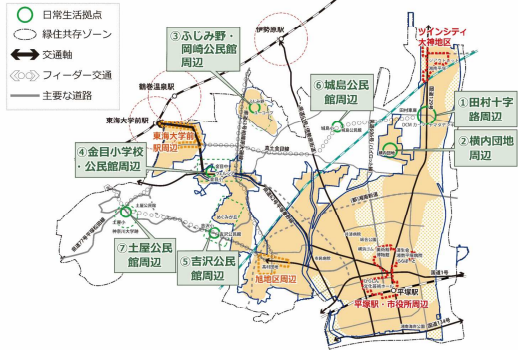


バスで行きやすく、安全・快適・便利なまちのイメージ
出典：国土交通省ホームページ「都市機能誘導区域」

拠点内に誘導する施設（誘導する施設）

基本機能	行政機能	医療機能	介護福祉機能	子育て機能	教育・文化機能	商業機能	金融機能
今ある都市機能の例	-		-	-	-		
誘導方針	行政、福祉、健康増進等の防災機能、教育、文化機能の維持・強化	強化	強化	強化	強化	強化	強化

郊外部の身近なコミュニティの拠点



拠点の位置	身近なコミュニティの拠点のイメージ
①田村十字路周辺	乗り換え便利なバス停を活かす拠点づくり
②横内団地周辺	団地再生とあわせて、身近な買い物や支え合いができる拠点づくり
③ふじみ野・岡崎公民館周辺	丘の上の移動や買物利便性を支える拠点づくり
④金目小学校・公民館周辺	安全で、乗り換え便利なバス停がある拠点づくり
⑤吉沢公民館周辺	ゆるぎ地区活性化とあわせて、移動や買物利便性を支える拠点づくり
⑥城島公民館周辺	交流の里づくりとあわせて、便利な交通結節点がある拠点づくり
⑦土屋公民館周辺	安全で快適な暮らしを支える丘陵部の拠点づくり

参考事例

地域内モビリティとの乗り換え結節点



電動アシスト自転車、スクーター、超小型EVのシェア型マルチモビリティステーション（さいじま市）

買物や交流スペースを備えたバス停



バス停に整備された交流スペース併設コンビニ「野七里テラス」（磯浜市栄区）

平塚市全域図での拠点の位置

